

デンタル・プレゼンテーション

Dental presentation



内山 茂 (うちやま しげる)

1977年 東京医科歯科大学卒業
 1984年から2013年 所沢市ウチヤマ歯科医院院長
 1998年から 東京医科歯科大学臨床教授
 2013年から 東京医科歯科大学臨床研修医指導医
 1978年から約20年間母校同窓会で卒業教育の一環として学術講演会の企画運営に当たる。その後開始した自身の講演活動は延べ300回を超え、現在はその経験を生かして、プライベートセミナー、オーダーメイドセミナー等により後進の育成に尽力している。

「デンタル・プレゼンテーション」vol.5

第2部(各論)

今回からスタートする第2部では、具体的なスライド作りとプレゼンの進行の仕方について解説していきます。内容は私が実際に受講した講演会(約300回)で感じたことや、私自身のプレゼン(約300回)で心がけてきたことが土台になっています。スライド作りの大原則は、自分が後方の席に座った観客となることです。どうしたら読みやすくインパクトのあるスライドになるか、工夫を重ねます。手を加えれば加えるほど良いものになるものです。プレゼンの製作には、文字の影の付け方や画面展開がさらにスマートになる、Keynote という Mac 用のアプリケーションソフトを用いていますが、PowerPoint でも同じような機能があるので、ほぼ同様の処理が可能です。

<バックグラウンドは統一する>

「内山先生のスライドはいつも美しく感動するのですが、先日の講演でやっと秘密がわかりました。」と言われたことがあります。その先生の分析では、秘密はバックグラウンド(以下 BG)にあるということでした。私のスライドは原則、すべての BG が統一されています。当たり前なようで、実は意識してやらないと難しいのです。一般に陥りやすい失敗は、単調な BG に飽きて、様々な BG を使ってしまうことです。最近はプレゼンソフトに既製の BG(テンプレート)が付属されており、時々変更した方が聴衆の受けが良いのでは、と思ってしまう。しかし、聴衆はプレゼンの外見よりも内容に期待しています。めまぐるしく変わる BG は注意力が散漫になったり、目がちらついたり、良い印象のプレゼンになりません。少なくとも講演の本題部分は **BG を統一** しましょう。

<バックグラウンドの色>

続いて BG の配色についてです。私の場合、色は濃いグレー系でそこに微かなグラデーションをつけます。色々試してみましたが、最後はこれに落ち着きました。最近はこのちょっとした工夫を加えています。この BG の上にもう一回同じような配色の BG を重ねると、1スライドを大きく2分割することができます。こうするとテーマを際立たせたり、それに説明を加えたりすることができます。必要がない場合、重ねた BG は削除します。(実例参照)

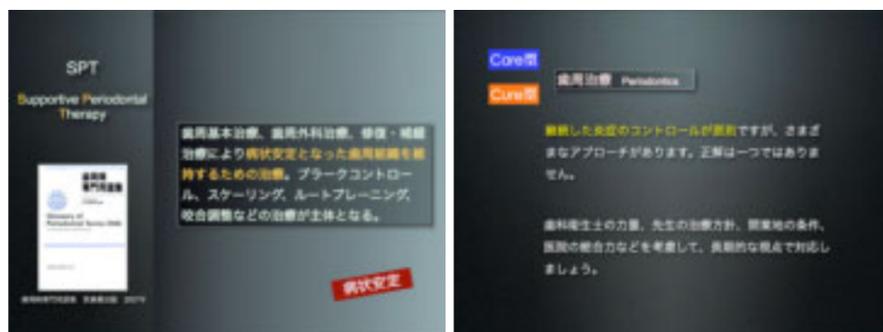


解説が長くなる場合や箇条書きは文字数が多くなって、見にくくなります。すっきりまとめるには、さらにもう一つ同色系の文字枠を付け加えます。



<文字色は3色以内で>

文字色は BG の補色で…などとよく言われますが、前項で述べた BG なら基本白文字で大丈夫です。一部の文字を強調したい時は明るい緑色か黄色を uses。さらに関連するキーワードや解説を付け加えたい時はプレゼンソフトのビルドインというエフェクトを使って、時間差表示させます。(その部分だけ文字枠内を塗りつぶすと一層見やすくなります。)何色もの文字色を使うのは、かえって見にくくなるので禁忌です。原則は1枚のスライドに3色



と覚えておきましょう。

もう一つ悪い例としては、BG と同系色の文字や赤系の文字を使うとスライドが見にくくなります。(下図参照)



BG と同系色の文字色

BG と補色の赤・紫系の文字

“ダイレクト ダイヤ ペースト”

柔軟なバフディスクとダイヤモンドペーストで、簡単に口腔内の補綴・修復物のツヤ出しができる研磨キットです。ホワイトポイントやスーパーファインダイヤ等での形態修整や咬合調整後に使用します。用途は修復物のツヤの復活や PMTC 時の修復物の再ツヤ出しなど。PMTC で修復物を曇らせたり、傷つけてしまったという経験をお持ちの方におすすめです。また、コンポジットレジン・陶材・金属など、各種補綴・修復物の光沢研磨や軽度のステイン除去に使用できるため、口腔内の雑多な修復物にもこのキットで対応できます。自費診療をされている医院さんには特におすすめです。ペースト、バフディスク共、この手の製品としてはコストパフォーマンスに優れることも魅力です。



ダイレクト ダイヤ ペースト